

JAC北九だより NO.25

社団法人 日本山岳会 北九州支部

Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発 行: 社団法人日本山岳会北九州支部 事務局: 北九州市門司区新原町 12-27

関 口 興 洋 方

TEL·FAX 自宅 093-382-6436 携帯 090-8919-6776

発行人:秦 野 一 彦

編集人: 関口興洋·伊藤久次郎

全国から130人が集う!

JAC 創立100周年・宮崎支部創立20周年 九州ブロック記念式典宮崎会場



韓国岳に登る前に、ホテルえびの高原荘玄関前て、平山会長を真ん中に宮崎支部会員と北九州支部会員の合同記念写真

JAC創立100周年 九州ブロック式典に参加して

No.11990 原 広美

日本山岳会 100 周年記念中央式典 に先駆けて、7月16日、17日九州 ブロック式典が、宮崎支部創立20周 年と合わせて、えびの高原荘におい て盛大に行われました。

平山会長をはじめ九州5支部、北海 道、山梨、首都圏、関西支部など、 北九州支部16名を含め総勢130名 が集い創立100年目を祝しました。



記念式典会場

各支部から活動報告

16日(土) 15:00より大谷副支部 長の開会の言葉から始まり、井野元 支部長、続いて平山会長の挨拶、そ の後分水嶺事務局長の森武昭さんか ら分水嶺踏査状況の報告がありまし た。全国で見るとまだ60%の完了で すが、来年5月には積雪地域なども 終わり100%の完了予定。北九州支 部ももうすでに終わっていますが報 告書の整理が出来ていないので80% との報告でした。 続いて各支部活動状況報告です。 福岡支部長に続き秦野支部長より発表があり、北九州支部会員が活発に行動していることなどをお話されました。北九州支部は殆ど山口県内のヤブコギで困難を極めましたが、他の支部も登山道などがないことや、未踏の地域などで苦労されていたようです。どの支部も大変な作業でしたので踏破した達成感を報告から感じとることが出来ました。同時に踏査に参加した方は'他の山行ができない'とのちょっぴり不満があったようですが、これもまた私どもと同感です。

森林化するえびの高原

16時からスライドによる「霧島の自然」をテーマにした講演でした。硫 黄による植物の変化など、宮崎支部の石井先生にわかり易く説明していただきました。今は硫黄の噴出が少なくなったので、これからのえびの高原は樹木などがすくすくと育ち、森林と化していくでしょうとのことでした。

南極の氷入り焼酎で乾杯!

16:00から懇親会会場に移動、鏡開きの樽には'雲海酒造'と書いてあり、ここは宮崎!と実感しました。しかも、平山会長が持参した「南極の氷」をつかった、樽焼酎ロックで乾杯! 5万年前の気泡がプチプチと音とたて、不思議な感じでした。焼酎を樽からすくっていただいたのは初めてだったので美味しく頂きました。

英彦山以来の平山会長や関西支部、 宮崎支部の方々との懐かしい再会、 皆さんそれぞれに会話がはずんでい たようでした。

韓国岳登山

17日は韓国岳登山です。早々に 朝食を済ませると、玄関前に集合、 コース別に記念撮影を済ませマイク ロバスにて登山口まで送っていただきましたが、あいにくの大粒の霧です。 山頂もこのような状態で残念でしたが、大浪の池まで下ると急にお天気になり、私たちがお鉢の回りを歩いた向こうに韓国岳の山頂がひょっこり顔を 見せてくれました。

懇親会や山行など宮崎支部会員 の皆さんに細やかな心使いをして 頂いた事にとても感謝をしていま す。霧島の100周年記念は良い思 い出になりました。

JAC創立 100 周年 宮崎記念式典に参加して

北九376 中 岡 邦 男

行きはジェントルマン的岳人

日本山岳会 100 周年及び宮崎支部 20 周年記念式典参加のため、7月16日から一泊予定で秦野支部長はじめ16名で会場の「えびの高原国民宿舎」へと向いました。

往路の貸し切りバスでは、到着後にある式典行事のため各人が自制した飲酒をして、新顔の私が見た限りでは全員が酒をあまり好まないジェントルマン的「岳人」に見えました。

会場に到着後早々に「霧島の湯」 に浸かり、湯上がりのヒンヤリとし た風の冷たさに高度を感じました。

鹿を喰って 鹿に謝意

会場の付近には愛くるしい目をした鹿が我々を迎えてくれましたが。 私には抗議の眼差しにみえました。 なぜなら、前日に福岡県川崎中ンス ・カーンではないがある。 中でもいたがなりましたがないがです。 などないができるしてがないがです。 かではないがではないができる。 はないができるがといるではないができないができる。 と対していたがないでできないができないができないができない。 と対していたがいるというができないができない。 と対していたがいるというできないできないがない。 と対していたがいるというできないできないができない。 と対していたがいるというできないできない。 と対しているというできないできない。 と対しているというというできない。 と対しているというというというというと対しているというというというというというというというというというというというというというにはいるというというというというというというというというというにはないました。

式典は、平山会長の祝辞に始まり、宮崎支部会員による「霧島の自然」の記念講演が行われ、地形の成り立ちや植物進化の話などを聞き、翌日の韓国岳登山での自然観察が楽しみになりました。

数万年のロマン!

式典が終わって席を宴会場へと 移動し、まずは、平山会長及び九 州の各支部長の鏡開きで宴会が始ま ったのですが、樽の中には宮崎らし く芋焼酎が入っていました。

そして、芋焼酎のオン・ザ・ロックで乾杯となったのですが、グラスの中には「南極の氷」が浮いていました。この氷は元南極観測隊員であった平山会長の差し入れで、数万年前の気泡とともに飲み干しました。数万年のロマンと本場物の焼酎が融合して本当に美味でした。

私流の飲み方の定番は、ビール に始まって焼酎に終わるのですが、 今回は焼酎に始まって焼酎に終わ ってしまいました。

どれほど時間が経ったか覚えていませんが、二次会が設定されていると言うことで座敷に場を移すと、ここもまた焼酎・焼酎・焼酎が無限に並べられていました。

北九支部は炭坑節!

各支部の余興が始まり、宮崎支部 は伝統芸能「ひょっとこ踊り」を 披露し、その踊りの表情に全員が 爆笑しました。

我が支部は、楠田さんの指導により全員で「炭坑節」を披露すると飛び入りがあるなど大盛況でさらに懇親を深めました。

翌17日、韓国岳~ 大浪池コース縦走

気分良く目覚めて、冷気を胸一杯 に吸い込み昨夜の残りがないことを 確認し、韓国岳を見上げるとクリス

タルのようにはっきりと岩場が見 えていましたが、出発前になり霧 島特有のキリがかかり、そのまま 晴れることを期待して韓国岳登山 口へと向かいました。

平山会長等を先頭に登山を開始 しましたが、暑さは無く全員快調 に高度を上げました。期待してい た大小のカルデラ湖の姿は、キリ の中に沈んで見ることができませ んでした。韓国岳のお鉢の中を覗 いていましたがキリが溜まってい るだけでした。10年前に登ったと きはカルデラ湖になっていたのに ザンネンでした。

宮崎支部の会員の方から「あち らの方に高千穂の峰があります」 と説明を受けると、私の脳裏には 10年前に見たあの秀峰がはっきり と見えていました。山頂での視界 はゼロで記念撮影をして早々に大 浪池へと下りました。

大浪池の縁道を歩きましたが池 の姿は閉ざされたままで「また来 ればいいさ」と思いながら回り込 み休憩所に着くと、いきなりキリ



姿を見せた大浪池と韓国岳

のベールが開けられ深緑の樹木に囲 まれた円形の大浪池が目に飛び込ん できました。池の色は周囲の樹木に 合わせた様に碧色を呈して、さざ波 が立ち陽光を跳ね返していました。

遠く下界に目を移すと少しガスっ た感じで錦江湾がうっすらと見え、 誰かが指さして「あの当たりが加治 木町」と説明すると私の気持ちは幕 末の世界に飛んで行き「翔ぶが如し」 の世界に入って行きました。

私はすっかり自分の世界にのめり 込んでしまい、西郷どんが猟に出か け岩に腰掛けてニギリ飯を食べるシ ーンのように私も岩に腰掛け昼食の おにぎり3個をパクつきました。

下山後は、汗と疲れを温泉でゆ っくりと洗い流し、韓国岳から吹 き下ろすヒンヤリとした風を正面 に受け止めながら、自販機で買っ た缶ビールを一気に流し込むと冷 えすぎたビールが喉を通らなくな りましたので一息ついて、残りを 惜しむように全部流し込みました。 この1分足らずの出来事がこれが また最高でした。

帰りは豪快な飲みっぷり!

帰りのバスの中で、誰がどのよ うにして持ち込んだか私にははっ きりと分かりませんが、焼酎の一 升瓶それに数多くの四合瓶の栓が 次々に封を切られ、往路のジェン トルマン的イメージが吹っ飛び、 みなさんのその豪快な飲みっぷり や酒量を見て、これぞ「日本男子」 「山男」と認識しました。

私は、今回の参加を機会に北九 支部員の「男の端くれ」になるた め、これからも山修行に参加したい と思っていますのでよろしくお願い します。

定 加

(北九州支部のみ)

4325 秦野一彦 10448 江頭精一 11427 日向祥剛 11467 篠田勝行 11977 溝部忠増 11979 大城戸昌敏 11990 原 広美 13465 大楠益弘 13499 伊藤久次郎 13520 西村信子 13541 高畠拓生 13643 関口興洋 13983 森永義忠 13994 楠田和彦 14051 三木靖子 北九376 中岡邦男 計16人

剱岳山行記

山頂で喫茶店開店

No. 13520 西村信子



劔岳山頂にて

7月30日夕方、 子供と孫の見送り で新門司港より船 上の人となる。孫 がいつまでもバイ バイと手を振って いる。新門司港へ 行くまでに晴天が 急に雷雨となり、 これからの山行が 気になる。

31 日早朝、大阪

劔岳メンバー

CL 13992 山田武史 SL 13991 中村昭彦 救急 13643 関口興洋 会計 13532 馬場基介 13520 西村信子 13541 高畠拓生 西村俊 13810 三木靖子 14051 北九389 森本信子 留守本部 10448 江 頭 精 一

南港着。富山までJRで移動。電 車、ケーブル、バスを乗り継いで 室堂に12時半ごろ到着。天気は うす曇。体操をし、水を補給して 13時15分出発。ミクリガ池へ の道でタテヤマリンドウに初めて お目にかかる。地獄谷を経由して

雷鳥沢を登っている時に雨が降り出し、雨具を着用。雷鳴も聞こえ、 先行き心配になる。別山乗越の剱 御前小舎に15時38分到着。雨は 止み、小休止の後、剱沢小屋へと 下る。小屋まではお花畑の道。コ イワカガミ、チングルマ、ハクサン イチゲなどが咲き乱れていた。16 時30分到着。

山小屋でシャワーがあるのはと ても有り難い。汗を洗い流す。夕 食はトンカツ。大きくてとても全 部は食べきれない。ご飯はとても 美味しかった。

食後、小屋のテラスで明日登る 剱岳を眺めていると、支部会員で 宇部の和田くんが「こんにちは」。

思いがけないところで出会ったものだ。源次郎尾根を登るそうだ、一人で。ザイルを持参していると言うが、とにかく気をつけてもらいたい。これからの支部を担う若手でもあるので。

8月1日、晴れ。十分な睡眠を取り、朝食もしっかり食べ、5時45分出発。いよいよメインの剱岳へ。ザックをデポさせてもらい、ディバックで軽めの荷物とする。剣山荘でトイレ休憩。一服剱に7時到着。五龍岳、鹿島槍ヶ岳、爺ヶ岳が見える。コバイケイソウの大群落。こんなに咲くのは10年振りだとのこと。

前剱を過ぎ、いよいよカニのターデバイへと取り掛かる。前のパーティがハーネスを着用して登りない。 に我々はお先に失礼して登りない。 を神経を集中して、皆、無事りの 全神経を集中して、皆、無事50分 到着。お天気もいいし、展望中して、ときいので早目の昼食を次にする。 で早目の昼食をは、コの時40分 中、至福のひととき!! 10時40 大ないたが出会えなかった。大大かな?

下山時の核心部のカニのヨコバイ

も意外とすんなりとクリア。12時 少し前に前剱分岐に到着。剱沢小 屋に14時着。往復8回雪渓を渡っ たが、足元がしっかりとしており、 アイゼンは不用でした。

デポした荷物を整理して、14 時35分出発。剱御前小舎までひと 登り。15時35分到着。

ここは稜線上の小屋なので天水 利用のため水が不自由である。今 後、泊まる場合は要チェック。相 部屋で福岡の東区から写真撮影に 来ていた御夫婦もおられた。暮れ ゆく剱岳を眺め、憧れの剱岳に登 れた感慨にふけり、就寝する。

8月2日、晴れ。今日で山ともお別れ。淋しいなぁ。お天気もいいし、もう少し山に居たいなぁと言いながら、4時45分剱御前小舎発。別山に5時15分到着。北峰まで足を伸ばし、改めて剱岳を見る。どんと聳え立っている。あの山に登ったのだ! 登れたのだ! 立田リーダー、中村サブリーダーに感謝!! 有難うございました。伊藤久次郎さん達が先週登った白馬岳もよく見えている。

別山(2,874m)を5時40分発。真砂岳(2,861m)6時25分着。10分の小休止。富士の折立に7時20分到着。朝食を済ませ、岩場を登り、山頂(2,999m)を踏む。四方八方の好展望。槍ヶ岳も見え、黒部湖も望める。

お天気に感謝! 私を含め、女性3人とも晴れ女とのこと。

男性陣、我々に感謝して下さいね。

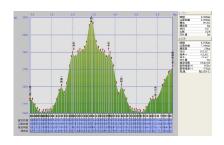
立山連峰最高地点の大汝山 (3,015m)を踏み、雄山へ。8時5 5分到着。3,003mの山頂の雄山神 社で500円払って祈願してもらい、 9時15分発。小・中・高校生の多 数の団体とすれ違いながら一の越 山荘9時57分着。10時10分発。 雪渓を3度ほど横切り、室堂に10時50分到着。リーダーと握手を交 わし、お土産を買う者あり、着替え る者あり、それぞれの用事を済ま せ、車中の人となり富山へ。

40分の待ち時間の間に生ビールで乾杯し、お昼を食べ、サンダーバード号に乗り込む。新大阪で新幹線に乗り換えてそれぞれの帰路につく。下関組は行きと同じフェリーで帰るとのこと。

今回、登り始めに雨にあったのみで、後は天気にも恵まれ、良きリーダー、サブリーダーに恵まれ、険しい剱岳に登頂することが出来ました。お花畑も満開で花に癒され、大満足の日々でした。ただ、雷鳥に出会わなかったのが、多少心残りでしたけど。

コースタイムは高畠さんの記録を参考にしました。

2日目 核心部の剱岳の標高差 (カシミールから)



劔岳山行記

花・花の剱岳 立山縦走

北九389 森 本 信 子

7月30日、門司駅に着くと大粒の 雨、一寸嫌な気分、でも自称「晴れ 女」三人がいる。きっと良い登山日 和になるよう、願いを込めてフェリ ーに乗る 7月31日、薄曇り、モノレール その他の乗り物をのり継ぎ、高原 バスにゆられ、一気に空気の冷た い、そしておいしい室堂へ、観光 客で賑わっていた。一休みし、重 いザックを背負い剱沢小屋を目指 す。可愛いチングルマ、斜面をお おいつくす程のコバイケイソウ、 ヨツバシオガマ等が咲き誇ってい

突然の雨、雷も鳴るが暫くする と止む。色とりどりの花が咲く道 を登るので疲れを感じなかった。

眼前に聳え立つ岩峰の剱岳に感 激! いよいよ明日挑戦す。星の またたく夜空が美しい。

8月1日、うす汚れた雪渓を注 意して何度も渡る。剱山荘前で 一休み。一服剱、前剱、平蔵の コルを両手両足に神経を集中さ せて進む。念願の頂上へ 三角点 にタッチ、バンザイ、残雪の衣を まとった北アルプスの山々が美し く連なっている。カニノタテバイ ヨコバイ、梯子も前を歩かれた関 口事務局長の適切なアドバイス で、無事通過し下山す。今夜の宿 の剱御前小舎へ、夜は楽しいミー ティング。

8月2日、早立ち、東の空が明 るみ、雲の間より太陽が顔を出す。 別山北峰で剱岳の雄姿を見納め る。雪渓にはまる、真砂岳、富士 の折立、大汝山を喘ぎながら登る。 雄山神社でお祓いとお神酒をいた だき無事下山す。

「喫茶」中村店の山のコーヒー 一段と美味しかった。下山途中、 小学生の団体に会い元気をもら い、花の中の道を下る。室堂で冷 水をボトルに詰めて帰路につく。

「行く夏を惜しむが如く百花咲き 岳人たちに ほほえみかける」

今回山で見つけた花。

ミヤマリンドウ、ミヤマトリカブト、 ミヤマキンバイ、ミヤマアキノキリ ンソウ、ミヤマクワガタ、ミヤマシ シウド、ミヤマキンポウゲ、チシマ ギキョウ、イワキキョウ、タテヤマ ウツボグサ、ヨツバシオガマ、ハク サンフウロ、コイワカガミ、ハクサ ンイチゲ、クルマユリ、ニッコウキ スゲ、シナノキンバイ、ワタスゲ、 ツカザクラ、アオノツカザクラ、ト ウヤクリンドウ、ウサギギク、チン グルマ、イワハゼ、イワツメクサ、 タカネツメクサ、コバイケイソウ、 イワベンケイ、ゴゼンタチバナ、ミ ヤマダイモンジソウ、タカネスミレ、 ミヤマガラシ。

* タテヤマリンドウと思って いた花は違っていた。本当のタテ ヤマリンドウは確認できず残念で した。

リーダーの山田様大変お世話に なりました。私たちの別行動のた めの切符の手配、フェリー乗り場 までの道順等隅々までの心遣いに 感謝しています。ありがとうござ います。

今回ご一緒させていただいた皆 様、楽しい山行ありがとうござい ました

参加者 9名 (氏名は西村さんの 山行記に同じ)

単独行二題

① 伯耆大山・剣ガ峰

② 劔岳·源治郎尾根

北九394 和 H 秀明

① 伯耆大山・剣ガ峰



6月18日、夜勤明けの休みに、 山口県宇部市の自宅から松江のユ ースホステルへ向け車を走らせた。 ユースでは顔なじみの嘉手川夫妻 が、温かく迎えてくれて、夜には、 ナイトハイクとして、近くの田園 に生息するヘイケボタルを見せて くれたりした。

相部屋の若者が、大山の弥山か ら、剣ガ峰へ縦走したことを聞き、 私の予定と同じため、思いを新た

にした。

6月19日、3時半起床。ユース を発って、大山寺へ。大山寺に着 いたときは、すでに明るいがまだ 人々は寝静まっている。5時半、 大山夏山登山道の登山口、テレテ レと、高度を上げて、7時20分、 弥山山頂(1,711m)。

山頂へは、「この先 危険」の表 示があるが、柵のロープを越した。 「やむにやまれぬ登山魂」といっ たところか。

私は、このルートを平成3年5 月にたどっているのだが、平成1 2年10月に鳥取県西部地震があ り、崩壊しつつある山、大山はさ らに崩れたと聞いている。そのた め、平成13年6月にここへ来たと



大山山頂「剣ガ峰」にて

きも、ときおりガスのかかる剣ガ 峰を眺めて、縦走をあきらめたも のだ。

頂上稜線は主として忠実に踏み 後をたどるが、ザレのリッジは、 細心の注意をもって通過する。

幅30センチくらいのところは、 手をついてさらに慎重に。浮石は、 そっと真上から押さえるようにし て。ほんとうに悪いザレの上りに は、ロープが垂らしてあったので、 少し加重をかけテストしてから、 あまり頼らないようにして、8時 ちょうどに中国地方最高峰の剣ガ 峰(1,729 m)へ。このピークは、 崩れずにいつまでも残っていて欲 しいものだ。

梅雨の晴れ間の好天の中、写真 を数枚撮影。お茶を飲んで簡単な 食事をして、山頂を後にした。

稜線の樹木は根を張って、大山 が崩壊してゆくのを食い止めてい る。この山岳の冬季の壮絶な気象 条件の中でのことだ。極力、植物 にダメージのないよう神経を遣う。

天狗ケ峰を過ぎると、安全地帯に入る。8時50分、ユートピヤ避難小屋を経由し、元谷の砂走りを駆けおりて、砂防ダム、大神山神社を通って、10時20分大山寺到着。

それにしても、重たそうな荷を せおって、砂走りを登ってゆく登 山者には驚いた。

大山寺では、みやげ物屋さんで 新鮮な牛乳を飲んで、すぐ帰途に ついた。

宇部の自宅に帰り着いたときは、 午後6時を少し回っていた。

(2005.6.21 自宅にて 和田)



② 劔岳・源治郎尾根



7月30日、夜勤明けの仕事が終わり、自宅のある山口県の宇部市から、約8時間電車を乗り継いで富山駅前のホテル泊。

7月31日 富山地鉄のバスで、 室堂へ直行。天候は、高曇り。テレ テレと雷鳥沢をつめて、別山乗越へ。 さらに剱沢小屋へ。支部の関口さん 達と出会う。関口さんは、この小屋 の前の広場がお気に入りらしい。確



源治郎尾根 | 峰から見た八ッ峰(写真2枚つないでみました~編集者)

かに雄大な剱岳を一望にできる。

私の剱岳登山は、別山尾根から3回、八ツ峰主稜下半2回、八ツ峰主 稜上半1回をすでにやっている。特に、八ツ峰下半の山行では失敗が多く、現在はそれが教訓となり、よく生かされていると思う。

夕食時天気予報を見ると、一週間 ずっと雨だった8月1日の予報が曇 りに変わっている。これまでも山行 ではあまり雨にやられたことはなか ったが、今回も山の女神は、どうや ら私たちに微笑んでくれたようだ。

支部のメンバー9人のいる部屋 へ挨拶に行き、少ししゃべり、ビ ールを飲んで早めの睡眠をとるこ とにする。

8月1日、2時半起床。朝食の弁当をごそごそ食べる。満天の星空が、今日の天気を約束しているように思えた。4時過ぎ、足元が少し明るくなったので出発。ヘッドラをつけて剱沢の下降を始めるが、別の踏み跡をたどって時間をかなりロスした。雪渓に下りてアイゼンを装着したときは、すでに空は明るくなっていた。アイゼンの爪はよく効き、5時半に平蔵谷出合に到着。後続の田嶋夫妻のパーティも続いた。

ハーネスを装着し、5時50分源 治郎尾根の潅木の支稜に取付く。剱 沢小屋の佐伯友邦氏のご指導のとお りとした。

この支稜は取付きから急坂で、踏 み跡がかすかにあるだけ。木の枝を 伝うように登高した。総重量約15 キロのザックが木に引っ掛かったり して難渋した。(支稜の、この部分は 落石の危険こそないものの、あまり 人に勧められないし、山の経験が少 ない者だったらすぐにファイトを失 うだろう。)

7時40分、ようやく潅木地帯を 抜けてルンゼルートと合流した。 再び長次郎側の岩壁の方へ迷い込 み、その間に田嶋パーティに追い 付かれる。

結局、平蔵谷側を直上し、主稜線と合流した。長大な岩稜の八ツ峰を眺めながら、つづらを切って、9時に源治郎尾根 I 峰ピークへ。八ツ峰の最高の展望台である。聞くところでは、田嶋パーティも、潅木リッジのジャングルジムで相当に悪戦苦闘したらしい。

ルートは、一旦、50メートル程下って、Ⅱ峰の登りへ。ハイマツのリッジだが、見た目ほど難しくない。 細長いⅡ峰のピークを伝うようにして、10時に懸垂下降の支点へ。

ここだけのために40メートルのロープを2本、独りで担いできたのだ。

ロープをセットし下降した。30 メートルの懸垂下降である。現職消 防官である田嶋氏の下降はスムーズ で美しかった。

ルートの先に、黒い服装の登山者がいたが、剱岳山頂から間違えて下りてきたのか? ザックをデポして下降路を探しているのか? 黒いザックだけが残っていた。

これからは、ガレの登りだが、ラ

インを読みながら登ってゆく。

ついに正午、剱岳(2,999m)に登頂。天気は、時々ガスがかかるものの、晴れていてくれた。剱岳の岩の色と、ハイマツの緑、残雪の白そして、空の色とのコントラストが美しい。

私が源治郎尾根をトレースしたのは、初めてなのでうれしかった。

源治郎尾根のトレース終了を剱沢小屋に連絡。佐伯友邦氏との約束である。

標高 2,999メートルとなった山頂三角点にさわって、祠のところで記念撮影。田嶋夫妻と握手。無事での登頂を祝う。田嶋氏の奥さんは、華奢な体ながらもよく登ってきたものだ。きっと意思の強い人なのだろ



劔岳山頂の祠前で

うと思う。

登山愛好者有志で剱岳山頂に1メートルのケルンを積んで何とか、三千メートル峰の仲間入りをさせたいと思うのは、私だけだろうか?(奥穂高岳山頂のケルンのような人工物は、実際には標高として含まれない。)

ヘロヘロに疲労困憊したので、と きどきザックを投げ出して休憩をと りつつ、別山尾根を下降し、15時に 剣山荘へ到着。田嶋氏にジュースを 買っていただき、ここでお別れ。

剣山荘泊とするが、ここの風呂は 最高に癒され、疲れが吹き飛んだ。

8月2日 5時40分、下山開始。 途中、剱沢小屋に立ち寄り、佐伯友 邦氏にお礼を言いに行った。時々、 源治郎稜線にいる私たちを双眼鏡で 見守っていてくれたそうだ。

別山乗越を越えて、仙界と俗界の 分かれ目である浄土川を過ぎると、 観光客の領域である。室堂バスター ミナルから乗り物を約10時間乗り継 いで、この日のうちに帰宅した。

(2005.8.3 自宅にて 和田)

100周年を迎えた白馬山荘へ



初めての北アルプス感想

スケールの大きさにびっくり!

北九 373 山下 富美子

2000年10月のこと、伊藤(Q) さん他10人の久住山登山に同行し、すっかり山にはまり込んでしまいました。それからというものは、毎週毎週夫婦揃っての山歩きが始まりました。

そのうちに一度は日本アルプスの山々に登ってみたくなり、やがて伊藤さんを口説き落とすのに大成功しました。心優しい伊藤さんです。そして、2005年7月22日~25日、10人のメンバーで北アルプス白馬岳へ挑戦したのです。

日頃キャンプ2でみる憧れの白 馬岳の写真そのまんまの大雪渓を 今自分の足で一歩一歩登ってる" 現実に大雪渓の中に自分がいる" 感動で胸がいっぱいになり、幾度 も泣き出しそうになりました。山 の雑誌でしか見たことのなかった 参加メンバー(10人)

CL 13499 SL 13541 13812 会計 北九372 北九373

13812 吉岡千津子 九372 山下定治 九373 山下富美子 ビジター 伊藤トモヱ

伊藤久次郎

高晶拓生

川田中美津江川本敏幸

川 山本真智子川 高田孝一

コマクサ、ウルップソウ、チングルマ、クロユリ等々色とりどりの高山植物の咲き誇るお花畑、まさに高嶺の花にふさわしい花たちでした。幸運なことに二度もかわいい雷鳥の親子に遭遇することが出来まし



者に配られた記念タオル

©方で大規模な土砂崩落事故が発生した。 **白馬大雪渓上で。**この半月後(八月十一日)、写真 た。これはサブリーダーの高畠さんが、雷鳥達と予約をしていたからだそうです。何と愉快なジョークでしょう! 今回同行しました7 5歳の田中美津江さん、皆と一緒 のメニューを見事クリア (男性群 の応援はありましたが) 日頃のた ゆまない努力、精進があれば頑張 れる勇気と希望を私達の目の前で 教えて下さいました。夢を現実の ものにして連れて行って下さっ た楽しい山の仲間達にもお礼を 述べたいと思います。

白馬岳山行記録 ビスタリーな山旅

S L No. 13541 高 畠 拓 生

7月22日 (金)

小倉駅新幹線口集合8時、10名集合。のぞみ8号、8時41分発で北アルプスに向かい、白馬駅15時37分到着。(株)白馬館案内所所長と会い宿泊手配確認。タクシーで村営猿倉荘3階に宿泊16時15分。食堂にて明日からの安全登山を祈願して生ビールで乾杯。夕食後、伊藤リーダーのミーティング、アイゼン取扱について。アイゼンを靴に合わせセット整備。装着練習、山行準備完了、9時30分消灯。

7月23日

4時起床。4時55分より朝食、雨 具着用、体操して猿倉荘(1,250m) 6時5分出発。ガス濃く視界悪く 登山客多くゆっくりと歩く。 7時 24分村営白馬尻荘、白馬尻小屋 にてトイレ休憩、7時52分出発。 大雪渓をアイゼン未装着にて、標 高 1,740m まで歩行訓練を体験し て、8時40分アイゼン装着。2名 1組で安全確保して滑落防止、ザ ック、ストック等の落下注意をす る。雪渓を安全に登るも4本爪と 6本爪の違いを知る。11時44分 ~12時30分、岩室下の標高 2,210m の岩場でアイゼン取り外し て昼食。

お花畑を鑑賞、写真撮影を楽しみながらコバイケイソウ、ハクサンイチゲ、ミヤマオダマキなど多種。食事時は晴れ間になり、大雪渓の凄さ、岩稜の荒々しさ、遠くの峰々と雲海を見ながらの食事は美味かった。クレパスの青々とし

た割れ目に吸い込まれそうで怖く 感じますね。村営頂上宿舎はガス の中、休むと冷気で寒さを増すの で私と吉岡さんは先行して白馬山 荘到着。ザックを置き、バテ気味 の人のザックを運びに出迎えに下 る。15時53分全員無事到着する。 所要時間9時間48分。(参考~6 年前の山下健夫ガイドツアー43名 参加では7時間45分)約2時間の 差。特別室(7畳)2室利用、レ ストラン棟では生ビール(¥ 1,000) で乾杯。今日の行程を振り返り、 九州の山々との違い、北アルプス 雄峰を歩いての感想を話し合いま した。食堂も宿泊者が多く列をな して時間待ち、我々は1時間遅れ になりました。20時20分就寝。

7月24日

4時起床。ご来光を見るために山 荘を4時23分出発。松沢貞逸銅像 撮影ポイントに12分で到着。ご来 光を待つも期待出来ず雲の間より 差す光のみ、日の出は残念ながら ・・。 ガスの切れ間に雲海と杓 子岳、鑓ヶ岳を望むことが出来ま した。昨日大雪渓を登った谷間も 見ることが出来ました。幸いなタ イム。6時朝食。

白馬山荘前で体操、集合写真撮影、視界10m、ガスの中を7時5分出発。7時23分白馬岳山頂(2,932.2m)着。35分出発、稜線歩き、1時間後雷鳥に出会う。三国境8時42分~52分。小雪渓上の6羽の雛を見守りながらの散歩! 氷河時代の生き残りの雷鳥に出

会うのは雷鳴の悪天候、ガス濃い 視界の悪いときに遭遇するチャン ス有り。2回も出会う幸運でした。 小蓮華山10時10分~24分、白 馬大池山荘到着、昼食12時39 分~13時33分。高度を下げる程 晴れ間から池や山容を望むことが 出来ました。池の周りの岩塊群を 飛び歩き、乗鞍岳に登り、写真撮 影、休む暇もなくガスの中を天狗 原への岩塊群の下り、でも苦労し ましたね。伊藤リーダー、山下、 山本、田中の4人と離れ、6名で 先行して栂池ヒュッテ 17 時 30 分 到着。所要時間10時間25分。私 はザックを置き、ランプ3個借用 して出迎えに登り返し、暗くなる 前、18時25分全員無事到着出来 ました。所要時間 11 時間 20 分。(参 考 山下健夫ガイドツアーのとき 所要時間8時間)

高山植物の女王コマクサや多種の花々の出逢い。2回も雷鳥との出逢いでビスタリーの山旅を楽しみ、予定よりゆっくり致しました。栂池ヒュッテの入浴は、長旅の疲れを癒してくれ最高の風呂でした。夕食での生ビールの美味しかったこと。全員無事下山出来たことを最高の喜びとして伊藤リーダーご苦労様でした。皆様ありがとう。

7月25日(月)

5時起床。準備中の朝風呂でシャワーを使い、6時朝食。7時6分ヒュッテ出発。ロープウエイ7時26分~7時56分。高原駅で荷物を預けて塩の道散策。番所からタクシーで高原駅立ち寄り、荷物を受け取り白馬大池駅11時12分到着。

(海抜 597 m) 11時30分発。松本、名古屋、小倉20時39分着。 解散、楽しい山行でした。

白馬岳山行総括(CL・伊藤)

今回の山行は、サブLの高畠氏を除いて、北アルプスに全く行ったことがない人達で、その為北アルプス入門と言われる白馬岳を選びました。事前のトレーニング山行を宝満山~三郡山の往復縦走をするなどしましたが、75歳の初面識で初参加の女性が、下りで少しペースが遅いな・・と感じた以外は、特に問題はありませんでした。

そして本番、白馬大雪渓の登りは、1時間遅れでしたが、早く出発したので、予定していた時間に到着しました。

2日目、白馬山頂からは下り一方で、少しずつ遅れることになりました。白馬大池から先は、更に足場が悪く、

普通の人なら岩から岩へ飛んで行けるのですが、そこは75歳の全くの初心者、飛び移ることが出来ず、男性隊員が密着リードし、3時間遅れで無事栂池ヒュッテに着くことが出来ました。

今回、初面識で初参加の75歳の女性については、スタミナがあり、長時間は問題なかったのですが、せめて数回は事前山行で様子を見るべきであったと思います。

事前の準備が到らなかったことに反省する次第です。 また、その半月後、我々が通過したコースの一部で、大 規模な土砂崩落事故がおこるなど、今回は、私にとって さらに身につまされる山行だったと思っております。

「百年目の真実 劔岳 三角点物語」を見て決断!

劔岳山行参加について

№ 13541 高 畠 拓 生

白馬岳山行(7/22~25)参加は早めに決定。5日後の連続山行になる劔岳山行(7/30~8/2)は、仕事の関係で無理と思い、山田リーダーより誘いを一応保留で断った状態でした。

6月30日雨降り、竹の子取りで足を滑らせ坂道転倒、 左足首を痛め日赤病院でレントゲン撮影。骨折は無く 安心、鎮痛消炎剤のみ治療する。その日に西村宅に竹 の子持参し、山話の中で伊藤さんより借りたビデオテ ープを、劔岳山行参加者に山行のため見せていたのを 私が借りました。

「百年目の真実 劔岳三角点物語」(2005.5.14、ハイビジョン BS-i より)を翌早朝に家内と一緒に見ましたところ深く感動し、その場で劔岳参加を決断!。二男が測量関係の仕事をしていた関係も影響してか山行参加に家内も賛成してくれましたので、早速山田リーダーに割り込み参加を申し込みOKを得ました。更に出社して、社長並びに専務に相談したところ許可が得ることが出来、剱岳参加が出来て本当に嬉しく思いました。

剱岳の山行記は、西村信子さんが投稿していますので 読んで下さい。私からは、参加出来、剣岳山頂で三角点 に触れることが出来たことが最高の喜びでした。帰宅後、 再度ビデオを見ながら家内に説明して想い出していま す。

ビデオの内容

※ 三等三角点 明治40年当時 27番目の標石使用 重量63 kg 長さ83 cm 選定 明治40年7月13日

柴崎芳太郎 (陸軍陸地測量官)

この間 100 年間、三角点標石の設置がされないままであった。

設置 平成16年8月24日 伊藤純一 観測 平成16年8月25日 山中雅之 (国土地理院北陸地方測量部)

100年前、柴崎芳太郎が測った剱の高さは、2,998.02 mと台帳に記載されている。

そして現在、山中雅之がGPSなどの最新器機を使って測った剱の高さは、2,998.6 mであった。これを四捨五入し、剱の高さを2,999mとして富山県庁で山田明部長が発表し、100年目にして初めて劔岳の山頂に三角点の標石が人の背に背負われて運ばれ設置された。

(なお、このビデオをご覧になりたい方は、伊藤Qまで)

南アルプス山行記

てかりだけ

光岳で大昔の三角点!?「御料局 三角點」

No. 11990 原 広美

今年の夏、南アルプス・千枚岳 〜光岳のロングコースを親しい山 の友人3名で登山計画しました。

7月26日、台風7号が静岡に上陸、100ミリの大雨を降らせて関東に抜けた直後、静岡駅に到着し

ました。土砂崩れのため東海フォレストのバスが不通となり、途中崩落したところは徒歩で、どうにか予定の10時に椹島に着くことが出来ました。

聖岳までは7年前に歩いたので すがその時はテント泊で装備が重



千枚岳から見た 雲上の富士山

く又 雨やガスに覆われて景色は なく、いつの日かもう一度訪れた いと強い希望がありました。今回 は天気に恵まれ、目前に富士山、 遠く槍が岳まで見えて本当にラッ キーでした。

27日、初日は椹島から千枚小屋を目指してモミ、ツガ、シラビソなどの針葉樹林帯の中を1,500 m登る。暑さとの戦いの中清水平で大休止、冷たい岩清水で喉を潤す。そして蕨段、駒島の池を通過このでもから苔むした倒木の原生林を行く。夕日が傾きかけた頃クルンバイ、ハクサンイチゲなどたくれたいのお花畑に出会うと、もう千ないのお花畑に出会うと、もうかいのと山小屋であいるが出来ました。

28日、朝食はお弁当にしてもら いダケカンバの間を千枚岳に向か う。山頂では裾野をきれいに広げ た大きな富士山が雲上にぽっかり 浮んで見えた。「ああ、来てよかっ たと」皆で歓喜の声。これから先 岩場に気をつけながら今回の最高 峰、荒川東岳 (3,141 m) に到着。 中岳を過ぎると一面のお花畑、時 間を忘れ皆カメラのシャッターを 切る。さあ、気を取り直してハイ マツ帯を抜け赤石岳山頂へ。ここ ではお茶を飲みながら、千枚小屋 から唯一山行の友となった奈良県 のご夫妻とのんびりとミーティン グをする。本日の山小屋は、縦走 路の分岐からかなり下った百間洞 山の家。

29日、5:00 出発、大沢岳を省 いて中盛丸山へ、そしてアップダ



荒川お花畑



千枚小屋からのご来光

ウンの厳しい兎岳山頂に着くとタ カネビランジの花が迎えてくれた。 7年前ビニールを敷いてその上に シュラフに包まって寝た荒廃した 兎岳避難小屋がその後どうなって いるかもう一度確認したかったの ですが、分岐から小屋まで行く元 気なし、通過です。 10:45 前聖着 早めに着いたので奥聖岳まで行く と端っこに古い3等三角点があり、 さらに縦走路が東尾根に向かって 延びているようだ。聖岳をたっぷ り味わって山頂を後にする。聖岳 の山容は大きい。足場の悪い砂礫 帯を膝にブレーキをかけながらジ グザグに下り、そして危険と思わ れるような切れ落ちた岩山の間や やせ尾根を通過して行く。黄色い マルバダケブキの群生の中を下っ て行くと聖平小屋が見えてくる。 薊畑を過ぎ山小屋へ直行する。 2,803 mの上河内岳が進行方向の目 前に大きくせまる。明日は山頂に 立つと光岳が見えるであろうと期 待するが、残念ながら山小屋テラ スでは、「明日は雨模様」との話が

30日、4:30朝食 今回の目的、 光岳を目指す。予報通り上河内岳、 茶臼岳は大粒の霧の中を行くが その後は晴れる。

行きかう。

聖平小屋の御主人から先日熊が 出て格闘したので気をつけるよう に忠告されたので3人とも鈴を鳴 らす。途中熊が樹皮をはいだと思 われる無惨な樹を数本見つける。

針葉樹林帯と苔むした倒木の中 易老岳に向かうがわずか数人の人 たちしか会わない。光小屋には水 がないので手前の水場でたっぷり 補給して小屋に到着。早速ザック をデポして光岳へ。山頂はうっそうとした樹林の中にあり「光岳標高 2,591 m」の立派な標識がある。この標識がなければ我が町の裏山の山頂といったような感じだ。とはいえ大井川源流の自然林です。

光岳はハイマツの最南端、従っ てライチョウもここが最後の生息 地、貴重な2カップルがいるはず だが光岳では会えませんでした。

山頂から西へ10分ほど下るとシンボルの光石がある。夕日が当たると光るのでこの名前がついたようだ。

又手前の岩には「御料局 三角點」と書かれためずらしい三角点らしきものがあった。「御料局」とは? 伊藤編集長に調べて頂きましたところ「御料」とは天皇、皇室のものという意味で、明治の頃この辺りの山林は皇室の所有地で宮内省御料局の管理でしたが現在では国有林と変わり、山の歴史を感じ取ることが出来ました。

光石の上でバンザイそして無事計画とおり完歩できたことに3人で握手、もう来ることがないかも知れないと思いながら小屋に戻る。そして3合のご飯を炊いて今夜は自炊のカレーライスです。明日は易老渡までの下りが長いので早めの就寝。

31日、タクシーを予約している ので早朝4:20出発、9:45 易老 渡着。急な下りが続いたので足が ガクガク。平岡駅の温泉で汗を流 し急行「伊那路2号」に乗り下関 への帰途に着く。

南アルプスはアプローチが困難なためか登山者が少なく、又アップダウンが大変だが緑と自然がとても美しいコースです。毎日約10時間のハードな歩行でしたが健康な体に感謝し、有意義なとても楽しい山行でした。



大崩山登山記録

祝子川にドボン!

No. 14081 塩 屋

実施月日 平成16年5月2日 天候 曇後雨 気温18度 ※ 行縢山行きを変更。

参加者 CL中村 SL上野 新谷 長谷川 弘中 玉野井 古野 原山 橘 塩屋(マイカー上野、原山)

行程 03:00 下関玉姫殿前出発~関 門トンネル~下曽根~椎田道路~中 津~別府湾SA~米良IC~けんか 橋~右折~美人の湯~登山口7:30着。 記録 8:00 登山口発。8:25 大崩山荘 着、見学。8:30 出発、8:50 丸太一本 橋を渡る。急登の連続で喘ぎ喘ぎ登

り、10:10 袖ダキ着(1,205m)。見上げ る湧塚の岩峰は霧のために、見え隠 れして写真が撮れず残念(あけぼの が付いていた)。10:20 袖ダキ発、11:10 中湧塚通過、11:45 上湧塚着、鞍部で 昼食。多数の登山者有り。12:15 出発、 降雨のため視界も悪いので、山頂行 きを諦めて、12:25 リンドウの丘への 分岐を左折して下る(途中ガレ場で 道を間違えた)。左下へ行っては行け ない。小積ダキ手前(1,391m)を右折 して下り、下小積ダキの岸壁を削っ て付けた様な所をワイヤーロープを

伝い慎重にトラバースする。ここが 一番危険箇所。ここより数多くの梯 子を下り、岩場のビバーク箇所を通 過し、14:00 見返りの塔、坊主岩下を 通過、だらだら尾根を下り祝子川に 出て渡る際にドボン(私)反省しき り。15:45 無事下山。16:10 登山口発、 延岡に出て高千穂線に入り北方の民 宿船小屋着。5月3日帰路につく。 トンネル道の駅にて天照ひうまの、 焼酎のキキ酒して帰着、解散。皆様 お疲れ様でした。運転の上野、原山 さんご苦労様でした。あけぼのは散 りかけていた。みつばは少ししかな かった。見頃は4月末か。走行距離 540km_o 以上

◇◇◇報告・お知らせなど◇◇◇

東海支部の総務委員会に参加して(2)

猿投の森づくり

№. 10448 江 頭 精 一(前事務局長)

今回は猿投の森づくりのお話をし ます。東海支部においては自然保護 活動も大変ユーニクで大掛かりな活 動を行っていました。

日本山岳会 100 周年事業の一環と してボランティア活動のよる森づく りを行うことでスタートしました。 内容の骨格は以下のとおりです。

- (1) 瀬戸市東山路町県有林(猿投 山北面150ヘクタール)を対象とし て、人工林の間伐、針広混林施業、 広葉樹林施業等による公益的に優れ た森づくり。
- (2) 作業歩道、自然観察路、標識 類の整備等により、林業の技術と知 識の体得。
- (3) 森林教室、登山教室、自然観 察会の開催により、森林生態系と植 物多様性の学習と知識の普及。
- (4) 森林内におけるキャンプ等野 外活動による自然とのふれあい(特 に小学生、身体障害者に焦点をあて たプログラムの開発)
- (5) その他、森林ボランティアの リーダー養成を目的とする作業等。

猿投の森づくりのリーダーは橋村 一豊さんという方で森林インストラ

クターの資格を持ち、愛知県農林部 や瀬戸市などの行政と交渉して県有 林 150 ヘクタールを借り受けること になりました。並々ならぬ情熱と行 動力であることについては驚くばか りです。組織的には東海支部の傘下 に入ってはいますが、森づくりの会 が大きくなればその性格上色々な一 般の方が参加してNPO的な雰囲気 になるかも知れません。

また、技術的な顧問としては名古 屋大学名誉教授の、只木良也教授が 参加して指導を行っており誠に立派 な組織、体制となっています。今の ところ、猿投の森づくり会の東海支 部における中心的なメンバーは20名 程度ですが今後どんどん増えていく 事と思います。また、機関紙も「雑 木林」という立派なカラー刷りが出 ています。その中で、作業日程が紹 介されています。具体的には、水場 整備、コースの下見、観測活動、巡 回路、作業道整備、活動点作り、森 の観察そして最後に、山桜の鑑賞と 鍋を囲んでの懇親会などです。

小屋はまだ出来ていませんでした が、作業用具は貸し出しもするとの

ことですので将来は小屋にその道具 や機材が沢山準備されるはずです。 やはり男性の方は鉈などの刃物は大 好きなようでわざわざ専門店から取 り寄せてにやにやしているようです。

また、山の作業を行って鍋を囲ん で懇親会というのは大変すばらしい ことだと思います。

最後に私は、「森開きの会」に参加し ましたのでその雰囲気を報告します。

平成16年10月23日猿投の森に おいて行われました。まず神事を行 いました。来賓は愛知県副知事、愛 知県県知事、瀬戸市長、日本山岳会 会長が挨拶されました。その後、セ ントラル愛知交響楽団によるミニコン サート、森の中で生で聴く弦楽の音は 感動しました。午後よりは、只木先 生の講義を聞き、三班に分かれて猿 投の森に分けいって行きました。

最後に北九州支部でもこのような 大掛かりなものは無理でも、何か小 規模なものは出来そうな気がします。 また森林インストラクターという資 格にチャレンジするのも大変有意義 ではないかと思います。

スポーツ安全保険加入のお勧め

No. 13465 大楠益弘

JAC北九だより7月号でお知らせしましたが、加入が思う様に増えていません。不幸にして事故が発生した場合は、治療費はもとより入院、通院費は、全て自己責任となり当支部では一切保障致しません。万が一の場合、家族や周りの人に迷惑を掛けない様に対策は講じていますか。自分だけは大丈夫と思っていませんか。<u>まだどこの保険にも加入していない会員は、ぜひスポーツ安全保険に加入して下さい。詳細は、7月号をご覧下さい。</u>

有効期間 来年3月末まで 保険金 ¥1,500

振 込 先 郵便振替口座 #01790-3-102242

加入者名 日本山岳会北九州支部

振 込 料 窓口で¥70 ATMで ¥60 問い合わせ 大楠まで 090-3196-8939

グリーンレンジャー(森林保全巡視員)のご案内

グリーンレンジャーの会会長 No. 13722 藤 田 傅

追加募集

現在メンバーは、30名ですが、自然保護、特に高山植物盗掘防止、登山者誘導、登山道整備、山火事防止などのボランティア活動をしてみたい方は、ぜひ申し込んで下さい。簡単な審査によって林野庁の委嘱を受けることが出来ます。

申込先は、大楠宛 090-3196-8939

FAX093-280-8759

期間更新

現在グリーンレンジャーの会のメンバーの委嘱期間は、本年11月末までです。承諾書の用紙を9月中にお送り下さい。切手代は、会の予算がないので自己負担で御願いします。送付先 〒800-0055 北九州市門司区東新町1-4-11 大楠益弘

忘年パーティの開催

~今年は門司地区で~

期日 平成17年11月26日(17:30~) 場所 めかり山荘(北九州市立国民宿舎) 門司区大字門司 めかり公園内 Tm. 093-321-5538

(16:30 と 17:00 に JR 門司港駅より送 迎バスあり) 受付 17:00より 会費 パーティのみ参加は、5,000円 パーティと宿泊は、10,000円

申込 FAX 又はハガキで、関口又は大楠まで

締切 10月末まで

山行計画のご案内

10月の山行

秋の大崩山(テント泊予定)

日 程 10月22日(土)~ 23日(日) 集合場所 門司港 22日(土) AM 9:00 コース 祝子川登山口~袖ダキ~和久塚~石塚 ~山頂~小積ダキ~坊主尾根~大崩山 荘~登山口

交通手段 マイカー

申込締切 10月5日 (ハガキ又は電話、Faxで 原 広美まで)

装 備 シュラフ、テント (お持ちの方) ほか

費 用 ガソリン代 食費など実費 参加人数 テントの都合もあって8名位まで (テント持参の数により変動) (参考~昨年5月に塩屋薫会員ほかの方々が登った 大崩山登山記録を参考にされたい)

11月の山行

宮崎ウェストン祭と祖母山

主催 宮崎支部

期日 11月2日(水)~3日(木・祭日)

交通 人数次第で中型貸切バス又はマイカー

定員 先着20人まで

費用 7,500 円位

申込 高畠拓生まで (FAX 又はハガキで)

TEL/FAX 0948-53-1740 住所 山田市上山田 335-36

締切 9月末まで

毎月第4水曜日 9月のサロンは、28 日 (水) 10 月のサロンは、26 日 (水)

時間 午後6時30分から 場所 小倉北区魚町「コール天」 (魚町銀天街、酒房武蔵より 西へ約30m)

費用 3,000 円前後 (ワリカン制です)

記念バンダナ

日本山岳会創立100周年記念 及び北九州支部創立5周年記念



濃グリーンと紅色2種 事務局にて1枚¥1,000

編集後記

○今回は原稿が多くて12ページになってしまいました。夏山特集みたいになりましたが、分水嶺踏査から開放されたためか、支部会員の活発な活動を感じます。うれしい限りです。でも私は8月は全く山行が出来ませんでした。

伊藤の

○山の原稿は

事務局(関口事務局長)又は 〒826-0032 田川市西平松11-8 伊藤久次郎までお送り下さい。 Eメールアドレスは

nkchb785@ybb.ne.jp です。 電話・Fax は、0947-42-2772 (IP 電話 050-1499-2772)